

揖斐川町学校教育の在り方審議会

やまと・きたがた幼稚園保護者との意見交換会（議事録概要）

1 日 時 令和8年2月16日（月） <開会>15時00分 <閉会>16時00分

2 場 所 やまと・きたがた幼稚園 遊戯室

3 出席者

審議会委員 徳永 恵理奈、中島 勝義

事務局 教育長 香田 静夫、事務局長 所 貴宏

保護者・家族 20人

幼稚園教員 6人

4 次 第

（1）挨拶&概況説明

- ・ 徳永委員より、開会の挨拶を行う。
- ・ 教育長より、「揖斐川町における学校教育の現状と課題」について説明を行う。

（2）意見交換

参加者：帰宅途中に1人になってしまうこともあるため、1・2年生のみで下校する低学年下校をなくしてほしい。上級生に兄や姉がいるので、一緒に帰ることができるとよい。

参加者：私の家は小学校から遠く、1時間程度歩く必要があるため、夏の暑い時期や熊の出る時期、さらに夕方暗くなる時間帯の下校が心配である。

教育長：登下校における安全性の確保についてご意見があったが、小学校の取組みはどのようになっているか。

委 員：学校によって事情が異なるため一概には言えないが、例えば清水小ではできる限り1人になる児童がいないような分団の編成を行ったり、どうしても1人になる場合は職員で対応したりといった工夫を行っている。学校としても熱中症や熊への対策の必要性は感じているが、それには人員が必要となるため、安全サポーターの方などの助けを得ながら対策しているという現状である。

教育長：近隣自治体では日傘や首に巻く熱中症対策用品などの活用を行っており、そのほかにも下校時間を暑い時間帯から少しずらすなどの対策もあると思われる。ご家庭によっても様々な工夫をされているので、一概に統一しようとは考えていないが、学校とも相談しながら臨機応変に対策していく。

参加者：今は遠方の場合に通学バスを利用している児童もいると思うが、私の子どもはその遠方には含まれないものの長距離を1人で下校する必要がある。熱中症等への対策という観点からも、希望者は距離にかかわらず通学バスが利用できるとよい。

教育長：現状では、公平性を担保するという理由から、例えば北方小では旧久瀬、藤橋、坂内の児童は通学バスが利用できるが、以前から北方小校区だったところに住んでいる児童は通学路をバスが通っていても乗ることができない。また、今年度の4月に春日小と小島小が統合したが、旧春日小の児童は通学バスに乗ることができても、もともと小島小に通っていた児童は乗ることができないというルールになっている。

今通学バスが整備されていない地域に新しく路線を増やすことは、費用面や人員確保

などの問題ですぐに行うことができないが、もしも小学校を1～2校に統合する場合には校区が非常に広くなり通学バスの整備が必要となるので、将来的には登下校の在り方も変わってくると思われる。ただ、今すぐに通学バスを利用できる児童を増やすことは難しいため、登下校の安全性の確保を最優先に臨機応変に考えていく。

参加者：やまと・きたがた幼稚園で一緒に学んだ子どもたちが、大和小と北方小に分かれることにより、人数も少なくなり仲のよい友達とも離れてしまう。その後北和中でまた一つになることも考えると、すべての小学校を1つに統合することが難しくても、大和小と北方小だけでも1つになれるとよいのではないか。

参加者：教育内容について、今は自発的に考える子どもたちが減っていると言われていたが、社会に出た時にも役立つと思うので、私は自分の子どもに自分で考えて行動できる自発性をもってほしいと感じている。例えば授業中に自分たちで考える時間をもっと設けていただくと、自発性の向上につながり、配付資料の4ページの「将来の夢や目標を持っていますか」の割合も少しずつ高まっていくのではないかと考える。

参加者：都会には、子どもたちが職業を体験して仮想のお金のやりとりをすることで社会に出た時の経験につなげる施設がある。まったく同じことをしてほしいというわけではないが、そういった職業について知ることができる機会があるとよい。

委員：揖斐川町の幼稚園では子どもの主体性というものを非常に大切にしており、例えば朝の自由遊びでは保育士が何かを設定するのではなく、子どもたちが自由に好きな遊びをする中で人間関係を育みながら遊びをどんどん広げていくという環境をつくっている。また、例えば何かを貼るという場面でも、保育士が道具を最初から用意することはせず、子どもたちからテープを使いたいという言葉が出てくるのを待って渡すということをしている。そして、さらに子どもたち同士でどのような貼り方をすればよいか考えて実践するようにすることで、主体性の育ちにつなげている。幼稚園では公開保育というものを行っているので、その中で小学校の先生にもこうした自分で考えて実践する時間を小学校に入学してからもつくっていただけるとよい、という話をしており、幼稚園で培った力を小学校でも発揮できるとよいと考えている。

ご自宅でも、子どもたちが自分で何かしたいと言った時には、保護者の方も一歩引いて子どもたちの意見を聞いて見守ってもらえると、自発的に考えられる子どもになるのではないかと考えている。自発的な姿を見た時には一言褒めてあげると自信にもつながるので、そういったことに気をつけて見守っていただきたい。

委員：小学校では最近、配布しているタブレットのルールについて、学級ごとにどういった使い方がよいか話し合ってもらった。その内容が児童会に集まって、さらにそれを低学年でもわかるように取りまとめたものを校長室に持ってきてくれたということがあった。このように、子どもたちがそれぞれの目標に向かって取り組むことができる環境を学校で保障できるよう、自分たちで考えてルールを決め、学校をつくり上げていけるような取組みを行っていきたく強く思っている。このことが夢や希望にもつながり、また幼稚園等から引き継いだ子どもたちの主体性をさらに伸ばすことにもつながると考えているので、来年度はもっと子どもたちが「自分たちがやっているのだ」という気持ちになれるようにしていきたい。

参加者：子どもの人数が今後減っていくということで、小学校や中学校の統合に関する話を聞いているが、現時点で教育委員会として何らかの案や考えはあるのか。

教育長：まず聞かせていただきたいこととして、統合した方がよいという考えか。

参加者：学校を統合すると人数が増えるので、様々な人と関わることができる機会が増えることはよいが、私自身人数の少ない学年で育ってきたこともあり、学校統合にはよい点と悪い点があると思うため、まだ判断はできていない。

教育長：この場で学校統合についてお答えすることは難しいが、アンケート調査の結果ではクラス替えができることや友達の輪が広がること、様々な考え方にふれることができることなど、大人数で過ごすことによって得られる育ちがあることから統合した方がよい、という意見が多かった。一方、小規模な学校のほうが個々の子どもたちにきめ細かな指導や支援をしてもらえるのでよい、という意見も少なからずある。それぞれメリットとデメリットがあるため、現在様々な意見を聞きながら審議会の中で審議しており、来年度1月に方針の案を出していただく。それを踏まえて町としてどのようにしていくのか判断することになるため、今日はこの程度の回答でご容赦いただきたい。

参加者：配付資料の1ページをみると、今後小学校を統合したとしても1学年50人程度の児童数ということになり、結局のところ将来的にはクラス替えができるのかどうかという話につながってくると思われる。それならば、移住者を増やすことを考えていく必要がある、そのためには揖斐川町で受けられる教育の強みについても考えていく必要があると感じている。例えばモンテッソーリや国際バカロレアのような教育方針を提唱することによって、魅力のある揖斐川町をつくって移住者を増やし、子どもの人口の増加を図っていくとよいのではないかと考える。

教育長：モンテッソーリはどちらかという幼児教育に関係することなので、国際バカロレアについて説明させていただくと、この認定を受けた学校は、いわゆる「総合的な学習の時間」のような探究活動を各教科の授業の中にも取り入れたダイナミックなものとなっていくが、その認定を受けるためには指導できる先生を増やすために研修を受けてもらう必要があり、ハードルが高くなっている。

国際バカロレアも一つの方法であり、私が今考えている教育の内容としては、やはり揖斐川町の強みとはこの自然豊かな環境や揖斐川によって育まれた伝統文化、歴史であり、こうしたものを材料に、各教科で学ぶ内容も入れ込みながら問題解決を図っていくような学習をもっと活発に行っていきたいと思っている。義務教育である以上、どの地域のどの学校でも同様にやらなければならない教育内容はあるが、その中でも揖斐川町としての教育の強みに比重をかけて学習できるようにすることで特徴を出していきたいと考えている。

せっかくの機会なので、幼稚園の先生からも意見をお聞きしたい。

参加者：人口の問題や登下校の安全性など地域の特徴的な課題はあると思うが、それらを解決しながら、子どもたちが元気に様々なことを学び、主体性をもって揖斐川町で楽しく周囲とつながりながら成長できる環境をつくっていけるとよいと思っている。

(3) お礼

- ・ 教育長より、参加者に対してお礼を申し上げる。

以上、閉会